科学研究費「基盤研究（C）」（研究課題番号 19K01571 代表者:有江大介）による研究集会

第 16 回バトラー研究会のお知らせ

今回の研究会は、中野安章氏（慶応大）と舩木恵子氏（武蔵大）による 2 本の報告です。J. バトラー（1692－1752）の神学的議論に先立つ当時の自然神学の状況と、バトラー後の 19 世紀イングランドにおけるユニテリアニズムの展開という、いつもより視点を広げた知見が披瀝されます。

日時: 2022 年 7 月 10 日（日） 13:30－17:30

方法: Zoom 会議により開催（ホスト:松本哲人氏･松山大・研究分担者）

・トピック（会議名）:第 16 回バトラー研究会

・ミーティング URL、ミーティング ID、パスワードは開催当日午前中にメールにて配布。

★研究会メンバー以外にも公開しますので、参加希望の方は以下の URL にある「参加登録フォーム」に記入して開催日前日（2022 年 7 月 9 日･土）までに送信してください。

https://forms.gle/1caykRAFPWJACyso9

（研究会終了後、Mossner 翻訳本出版に向けての現況報告と、メンバーによる共同論文集についての意見交換を行います。）

第 1 報告：中野安章氏「ウィストン『地球の新理論』（1696）のニュートン主義自然神学」

司会　有江大介氏

自然神学とは、広い意味では人間の自然理性に基づく神認識を、狭い意味では自然界を媒介した神認識を指し、後者の意味では、特にデザイン論に基づく神の存在証明を指すことが多い。17 世紀後半から 18 世紀前半のイングランドでは、新しい自然哲学の興隆と並行して自然神学が盛んに試みられた。そのうち最も著名なのがベントリーやデラムのボイル講演である。しかしこの時期に新しく興隆した自然神学には、デザイン論に納まらないものがある。本報告は、ウィリアム・ウィストンの『地球の新理論』（1696）を取り上げ、そこに見られるニュートン自然哲学と聖書釈義を結合させる特異な自然神学の意義を検討したい。

第 2 報告：舩木恵子氏「ジェームズ・マーティノゥの神学的倫理学
—19 世紀イギリスのユニテリアニズムの変容」

司会　大久保正健氏

本報告は 19 世紀においてユニテリアニズムを倫理学に発展させたジェームズ・マーティノゥ(James Martineau: 1805-1900)の神学的倫理学についての研究報告であり、倫理システム論からはじまる著書 *Types of Ethical Theory*（1885）とシジウィックがその分析をおこなった著書 *Lectures on the Ethics of T.H. Green, Harbert Spencer, J. Martineau*（1902；死後出版）などを中心に、ユニテリアニズムとイギリス理想主義を融合させたジェームズ・マーティノゥの神学と倫理学について報告します。

＜予定スケジュール＞

13：30－13：45　参加者の自己紹介
13：45－15：15　第 1 報告と討論
15：15－15：25　休憩
15：25－16：55　第 2 報告と討論　公開研究会はここで終了
17：00－17：30　バトラー研究会メンバーによる協議

（文責：有江）